

NEWSLETTER #138

p.1 第36回 日本ポピュラー音楽学会年次大会 JASPM36 開催のお知らせ長尾洋子

p.4 2024年度第4回 例会報告忠 聡太

* 第2回例会、第3回例会の報告は次号掲載の予定です。

Information

p.5 事務局より 会員動静

第36回日本ポピュラー音楽学会年次大会 JASPM36 開催のお知らせ

【ご挨拶】

大会実行委員長 長尾洋子

JASPM 第36回大会は、11月30日（土）と12月1日（日）に、和光大学にて開催いたします。タイムテーブルは初日午後に個人研究発表と総会、2日目午前にはワークショップ、午後にシンポジウムを行います。シンポジウムは「AI とポピュラー音楽」と題して急速に進展しつつあるAI とポピュラー音楽の関係について現状を探り、今後を展望する場にしたしたいと思います。司会は増田聡会長、パネリストは本会内外から研究・教育のみならず、創作やシステム開発の領域においても活躍している方々に登壇いただきます。フロアからも、AI との付き合い方、感性、創造性、制度、倫理など、さまざまな角度からの経験や知見、疑問や展望を語っていただければと思います。

今回は個人発表の応募が例年より多く、3会場で並行して行うことになりました。関連性の高い発表を同会場・同時間帯に配置するよう考慮しましたが、聞き逃しのないよう事前にプログラムをよくご確認ください。

・会場へのアクセス

和光大学（東京都町田市）へのアクセスは、小田急線鶴川駅をご利用下さい。新宿からは約30分です（新百合ヶ丘駅まで快速急行を利用した場合。鶴川駅は各停のみ停車）。詳細は下記のウェブサイトでご確認下さい。

<https://www.wako.ac.jp/info/access/map.html>

学バス情報（初日のみ）

<https://www.wako.ac.jp/info/access/>

関西方面から新幹線でお越しの際は、新横浜駅で下車し、JR 横浜線（八王子方面行き）で町田駅まで行き、町田から鶴川駅まで小田急線各駅停車（新宿方面行き）を利用するとスムーズです。町田で乗り換える際に、JR と小田急の駅が少し離れているのでご注意ください。

町田駅バスロータリーには名古屋、関西、金沢市、富山市からの高速バスが発着します。

・宿泊のご案内

和光大学最寄りの小田急線鶴川駅は郊外の住宅地エリアに位置し、周辺に宿泊施設がありません。宿泊は近隣の小田急線/JR 町田駅、小田急線相模大野駅、小田急線新百合ヶ丘駅等周辺のホテルをご利用ください。

また、大会初日の11月30日はJ1リーグ町田ゼルビア vs 京都パープル・サンガ戦の試合開催日と重なり、混雑が予想されるため、早めの宿泊予約をお勧めします。

・参加費支払い方法について

今大会の支払い方法は振込のみです。ご承知おきください。

大会参加費

【一般会員】

事前振込：3,000円／当日：4,000円

【学部生・院生会員】

事前振込：2,000円／当日：3,000円

【非会員】

(当日受付のみ) 4,000円／シンポジウムのみ参加：1,000円

懇親会費

【一般会員】

事前払込・振込：4,000円／当日：5,000円

【学部生・院生会員】

事前払込・振込：2,000円／当日：3,000円

【非会員】

(当日受付のみ) 5,000円

支払い方法

大会参加費・懇親会費の合計額を、以下のゆうちょ銀行振替口座に入金して下さい。

なお事前振込の受付メ切は「11月15日(金)」です。払込・振込通知の名義は個人(会員)名でお願いします。

<現金または自身の「ゆうちょ口座」から送金する場合>
日本ポピュラー音楽学会大会実行委員会 (ニホンホ°ヒ° ユラーオンカ° クカ° ッカイタイカイシ° ッコウイ)
ゆうちょ銀行振替口座 (記号・番号) : 00290-8-105674

<ゆうちょ銀行以外の金融機関から送金する場合>
日本ポピュラー音楽学会大会実行委員会 (ニホンホ°ヒ° ユラーオンカ° クカ° ッカイタイカイシ° ッコウイ)

【店名】 ○二九 (ゼロ ニ キュウ)

【預金種目】 当座

【口座番号】 0105674

※送金に係る手数料は各自でご負担くださいますよう、お願いします。振り込まれた参加費・懇親会費は、大会を欠席された場合でも返金出来ませんのでご承知おき願います。

プログラム (暫定版)

11月30日(土)

12:00 開場・受付開始

13:00~16:50 個人発表

個人発表 A 前半：13:00~15:00

A1. 柴台 弘毅 (埼玉学園大学人間学部 専任講師)

共視聴コンテンツとしてのミュージックビデオ — エピック・ソニー「BEE」を事例に

A2. Drexler Anita (大阪大学大学院人文学研究科博士課程 後期)

「ニューミュージック」のジャンル性を再考する

A3. 岸本 寿怜 (大阪大学大学院人文学研究科芸術学専攻 博士前期課程)

1990年代のSMAP楽曲の制作とその批評から見るJポップの形成

A4. 渡久山 幸功 (琉球大学 非常勤講師)

Paul Simon の歌詞にみる(非)政治性:お蔵入りとなったポリティカル・ソングを検討する

個人発表 B 前半：13:00~15:00

B1. 清水 将也 (東京大学大学院学際情報学府社会情報学コース博士前期課程2年)

「丸サ進行」の流行~コード進行のインターメディア分析~

B2. 井樋 菜月 (九州大学大学院芸術工学府芸術工学専攻 音響設計コース修士課程)

楽曲の色彩想起における調と楽器編成の影響の検討

B3. 宮津 聡大 (九州大学大学院 芸術工学専攻 音響設計コース 修士2年)

漫画を原作としたアニメーション作品における聴覚化の特徴

B4. 山内 信明 (東京大学人文社会系研究科博士課程1年)
ジャンルと産業 楽曲データとチャートデータを用いて計量データ分析

個人発表 C 前半 : 13:00~15:00

- C1. 太田 健二 (甲南女子大学)
ポストコロナの音楽ベニュー：郊外の小規模ライブハウスのインタビュー調査を事例に
- C2. 小林 篤茂(合同会社 Sunshine of Your Love 代表社員)
軽音楽部におけるキャリア形成
- C3. 星川 彩 (大阪大学大学院博士後期課程)
首都圏小中規模ライブハウスにおける女性シンガーソングライター(SSW)と男性ファンのジェンダーステレオタイプ
- C4. アイスカハラ (フリーランス(ライブカメラマン))
前コロナ禍までの現代日本のポピュラー音楽の現場における演劇性の総括

個人発表 A 後半 : 15:20~16:50

- A5. 菊池 虎太郎 (大阪大学大学院人文学研究科博士後期課程)
アンチ J-POP としての〈邦楽ロック〉——1985 年以降の日本におけるオルタナティブなメディアによる音楽ジャンルの形成
- A6. 大村 隆景 (武蔵大学大学院 修士課程 1 年)
「27 クラブ」と逸脱 —ロック音楽文化の指向性を通じて—
- A7. 日高 良祐 (京都女子大学)
MiniDisc によるデジタル・エアチェック —FM 雑誌末期におけるフォーマットの作用—

個人発表 B 後半 : 15:20~16:50

- B5. 吉村 汐七(大阪大学大学院文学研究科博士後期課程)
同期演奏における音楽実践の変化：1980 年代から 1990 年代まで
- B6. 岡田 正樹 (駒澤大学)
レコーディング/ライブにおけるセッション・ギタリストの楽譜：その記譜法と機能
- B7. 荒井 柚月 (筑波大学)
音 MAD の記号論的分析：超テキスト性と二重分節から見る音 MAD の固有性

個人発表 C 後半 : 15:20~16:50

- C5. 北島 拓 (大阪大学大学院 博士後期課程)
ポピュラー音楽遺産研究の批判的検討—英語圏における議論の整理と日本への応用可能性—

- C6. 宮島 亮 (東京藝術大学大学院 国際芸術創造研究科 博士後期課程)
音楽アーティストのコミュニティ観と SNS の関係性——SCAT を用いた当事者インタビューの質的分析から——
- C7. 肥後 楽 (大阪大学社会技術共創研究センター 特任助教)
新聞記事の分析を通じた「音楽のまち」の姿の検証

総会: 17:00~18:00

懇親会: 18:30~20:30

12月1日(日)

9:30 受付開始

10:00~12:30 ワークショップ

ワークショップ A

音楽を競い合うこと—コンクール文化から考える

発表者: 小塩さとみ (宮城教育大学/非会員)、垣沼詢子 (立命館大学/会員)、澤田聖也 (東京藝術大学/会員)、神保夏子 (東京大学/非会員)、宮入恭平 (立教大学/会員: コーディネーター)、吉光正絵 (長崎県立大学/会員)

討論者: 野澤豊一 (富山大学/会員)

ワークショップ B

ポピュラー音楽の「深掘り」: 楽曲の分析や解説の今日的なあり方とその教育的意義をめぐって

発表者: 川本聡胤 (フェリス女学院大学/会員: コーディネーター)、谷口文和 (京都精華大学/会員)、山路敦司 (大阪電気通信大学/会員)

討論者: 高橋美樹 (高知大学/会員)

14:00~17:00 シンポジウム

AI とポピュラー音楽 ~現状とこれから~

増田聡 (司会、大阪公立大学)

遠藤薫 (学習院大学)

大谷紀子 (東京都市大学)

徳井直生 (滋賀大学、株式会社 Qosmo、株式会社 Neutone)

中村栄太 (九州大学)

2024 年度第 4 回例会

忠聡太

「ライブハウスとバンドマン関連書評会」

日時：2024 年 9 月 8 日（日） 午後 2 時～5 時

場所：オンライン

2024 年度 4 回目の例会はオンラインで開催され、日本のライブハウスをフィールドとした質的調査にもとづく研究成果をまとめた二冊の近刊をとりあげる書評セッションが組まれた。一冊は 2022 年刊の生井達也『ライブハウスの人類学—音楽を介して「生きられる場」を築くこと』（晃洋書房）、もう一冊は 2023 年刊の野村駿『夢と生きる—バンドマンの社会学』（岩波書店）である。著者の両氏をお迎えし、書評者として村尾尚哉氏、小泉恭子会員が順に登壇し、永井純一会員の司会のもとで各研究の可能性を交差させながら議論を深めた。

本例会で主眼が置かれた二冊は、それぞれライブハウスとそこに集う人びとを調査対象としながらも、その研究方法や研究者の立場はきわめて対照的である。生井氏の専門は書名が示すとおり人類学であり、神戸市のとあるライブハウスをフィールドとしてエスノグラフィを書いている。本書において重要なのは、自身もインディペンデントなミュージシャンとしてライブハウスで精力的に音楽活動を続けてきたという生井氏の主体性である。単なる調査者としてフィールドに入るのではなく、出演者や常連客といったインフォーマントとも重なる属性を有しながら、内面的にライブハウスの本質を描き出すことを試みている。

一方、教育社会学を専門とする野村氏は音楽にはほとんど興味を抱かず、もっぱら社会学的な関心から、ライブハウスでの活動を足がかりにミュージシャンとしてのキャリアを築こうとする「バンドマン」たちにインタビュー調査を行なっている。インフォーマントの音楽性などには一切ふれることなく、ライブハウスでなされる音楽実践からは一定の距離をとる立場は、その成果の記述においても徹底している。

最初の評者である村尾氏も関西のライブハウスをフィールドとしているが、その立場はさらに両者とは異なり、音楽史の構築を目的としている。そうした立場をふまえ

つつ、生井氏の研究に対しては、「生産/消費」の二元論ではとらえきれないライブハウスでの諸実践の可能性や、従来はネガティブに捉えられてきたライブハウスの閉鎖的な側面を問い直した点に意義を見出していた。野村氏の研究に対しては、音楽好きとしてフィールドに入り記述せざるをえない自身の葛藤をふまえつつ、選択・断念・維持といった明晰な区分により、共同体としてのライブハウスの周辺で生まれるライフコース観をあきらかにしたことや、これに影響する学校文化や階級といった要因との関連について言及し、音楽を捨象したからこそ結晶化できる議論があることを強調した。

次の評者である小泉氏は、学校をフィールドとした調査経験や、大学でのキャリア指導経験をふまえて、教育学やジェンダー論の観点から両研究の意義を指摘した。まず、野村氏の研究に対しては、従来は教育・労働・家族の三領域を軸に分析されていた議論に、若者文化という四つめの領域を加えた点に着目し、こうした分析軸が「標準」とされるライフコースからははずれる選択をしたひとびとの生き方を考察する可能性につながるものが指摘された。続けて生井氏の研究に関しては、人類学の古典的な概念である贈与と互酬性にもとづいたライブハウスの分析が、与える演者と受け取る観客といった単純な二項対立を超えた循環的でダイナミックな実践の実際を記述するうえで有効であることを評価しつつ、そうした場においてステージ上でもフロアでも重要視される没入感に着目しながら議論を敷衍した。

村尾氏・小泉両氏からの問題提起では、ともにひとつの「ハコ」での集中的な調査にもとづく両研究の成果を他の地域や時代の考察にも広げることの有効性や、ライブハウスのアクターとしては少数派になりがちな女性についての議論を深める必要性が指摘された。さらに村尾氏からはライブハウスでフィールドワークをする上でのノートを取るタイミングなど方法上の問題や、出版を経た前後でのフィールドとの関係性の変化などについての質問があがり、小泉氏も教育の場である学校とライブハウスがライフコース選択に及ぼす影響のジェンダー差や、そうした場面に教育者として携わる際の困惑などについて、それぞれ当事者性の高い問題提起を行なった。

生井・野村両氏からの応答を交えて、ディスカッションは活発に進んだ。多岐にわたった当日の議論全体を俯瞰することはできないので、ここでは報告者が特に感銘を受けた論点をふりかえっておきたい。

生井氏は、一点突破の集中的なフィールドワークから普遍的な理論を導き出すことの重要性を強調していた。ミュージシャンとして数多くのライブハウスに出演してきた生井氏は、かつてそこでの経験をそれほど肯定的には捉えられていなかったと正直に告白していた。しかし、『ライブハウスの人類学』の舞台となるHOLとの出会いをきっかけに、さまざまなひとびとが活発に交歓する場としてのポテンシャルを意識したという。HOLは例外的な事例かもしれないが、同じシステムを有している他のハコでも実現可能な希望を、そこには確かに見いだすことができる。

野村氏は、ライブハウスに通いつめる精力的な調査を経てもなお音楽を好きになることはなかったとふりかえっており、これは報告者にとってきわめて衝撃的だった。ポピュラー音楽を対象とする研究にふみこむ人の多くは何かしらの音楽への愛着を出発点としており、それに人の心を動かす力が宿っていることを素朴に絶対視しがちである。イヤーマフの装着が爆音の演奏をクリアに聴くことを可能にするように、音楽をめぐる実践を徹底的に等閑視できる地点に立つてはじめて観測できる事象は、おそらく報告者が想像している以上に分厚い層をなしているだろう。(忠聡太)

◆information◆

事務局より

1. 登録情報に変更が生じた場合について

所属・住所・メールアドレスなどの登録情報に変更が生じた場合、できるだけ早くSMOOSY(会員マイページ)にログインし、ご自身で修正作業を行ってください。変更がない場合、学会誌や郵便物、メールニュース、例会のお知らせがお手元に届かないなどのご迷惑をおかけするおそれがございます。修正項目の入力の際には、入力内容にお間違えがないようご注意ください。

2. 退会の届け出について

本会の退会を希望される場合、速やかに学会事務局(jimu@jaspm.jp)までお知らせください。

3. 会費請求と学会誌について

2024年4月に、学会誌Vol.27(2023)を会員の皆様のお手元にお届けしました。

なお、学会誌は前年(2023)度の会費納入者にお送りしています。会費納入をしたにも関わらず、学会誌が届かない場合には、入れ違いや何らかの手違いが発生している可能性がございますので、お手数ですが事務局までご一報ください。

4. ニュースレターについて

本紙のバックナンバーについてはJASPMウェブサイトでのニュースレターのページに掲載されています(URL:https://www.jaspm.jp/?page_id=213)。

会員動静

■入会者

- 宮島亮
太田あさり(武蔵大学大学院人文科学研究科社会学専攻)
ゲン カクカク
梶大也(九州大学大学院芸術工学府芸術工学専攻)
淵上慧士(九州大学大学院芸術工学府芸術工学専攻音響設計コース)
中村栄太(九州大学大学院システム情報科学研究院情報学部門)
澤井賢一(九州大学大学院芸術工学研究院人間生活デザイン部門)
米田英智(社会構想大学院大学実務教育研究科実務教育専攻)
ヴェルトカンプ アロイス(ライデン大学人文学部 アジア研究、日本研究(修士))
清水将也(東京大学大学院学際情報学府学際情報学専攻)
山田淳平
金子博和(奈良県立教育研究所教育情報化推進部音楽科指導主事)

魏正（北京外国語大学北京日本学研究中心文化コース）
ニキティン クリスティーナ 美咲（ハーバード大学音楽学部民族音楽学）
小栗宏太（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所）
金範俊（大阪大学 大学院文学研究科音楽学）
鈴木岳志（東京外国語大学総合国際学研究所世界言語社会専攻言語文化コース）
佐藤颯
呂政慧（名古屋大学大学院人文学研究科）
橋本たみ（同志社大学グローバルスタディーズ研究科）
加藤勲
林夏木（四国大学短期大学部幼児教育保育科）
グロスベック ギャレット（ウエズリヤン大学大学院音楽学部民族音楽学科）
山上京夏（椋山女学園大学高等学校）
岩谷陽
丸山彩穂
笠原桃華
弓削田孟（桜美林大学芸術文化学群音楽専修）
北島拓（大阪大学大学院人文学研究科芸術学専攻音楽学研究室）
宮津聴大（九州大学大学院芸術工学府芸術工学専攻音響設計コース）
琴太一（第二東京弁護士会）

■退会者

稲増龍夫
岩松久雄
岩元萌佳
奥野和憲
川崎賢一
蒲生諒太
木下和彦
金 クリス・仁恤
木村颯
桑島紳二
黄逸雋
琴太一
社河内友里

宿谷一
杉原洋介
瀧戸彩花
田中公一朗
田邊健太郎
大門碧
坪能由紀子
出口幸子
トン クン・フォン・ベニー
長谷川倫子
藤野喜嗣
増田篤志
森博史
山本佳奈子
サンダース キンパリー
細川美音

*2023 年第 3 回理事会以降承認分。敬称略。

JASPM NEWSLETTER 第 138 号
(vol.36 no.3)

2024 年 9 月 30 日発行

発行：日本ポピュラー音楽学会（JASPM）

会長 増田聡

理事 大和田俊之・小泉恭子・周東美材・
永井純一・永富真梨・溝尻真也・
南田勝也・安田昌弘

学会事務局：

〒606-0016

京都府京都市左京区岩倉木野町 137

京都精華大学メディア表現学部

安田昌弘研究室内

jimu@jaspm.jp（事務一般）

jaspmkk@gmail.com（ニューズレター関係）

<http://www.jaspm.jp>

振替：

00160-3-412057 日本ポピュラー音楽学会

編集：南田勝也